

# 県北鹿行

## 救急対応の新病棟完成

### ひたち医療センター 来月7日から診療



ひたち医療センターの新病棟完成を祝いテープカットする関係者＝日立市鮎川町

日立市鮎川町のひたち医療センター(安本和正院長)が隣接地に建設を進めていた新病棟が完成し18日、同病棟内で竣工式が行われた。高度な医療設備と医療機器を備え、安心

・安全を提供する県北地域の中核医療機関としての役割が期待される。新病棟での診療は5月7日に開始する。新病棟は鉄筋コンクリート6階建てで、延べ床面積約8500平方

方。病床132床を確保し、内科、外科、整形外科などを中心に診療科目17科。高度治療室(HCU)や救急外来などの医療設備と機器を整備した。診察室や各種検査室をフロアに集約することで、救急搬送から緊急手術、各種検査への最短動線を確保し、患者の不安解消や医療従事者の負担軽減につながった。

れる病院としてより一層成長してほしい、吉成市長が「県北地域の二次救急医療体制の中核を担ってほしい」と期待を寄せた。また同センターと連携する昭和大学の小口勝司理事長は「質の高い医療や教育を行うためにも人的支援をしていきたい」と述べた。

同センターは1963年、秦外科医院として創立。2013年に県内初の社会医療法人に認定されて同センターに改称。併せて昭和大学の連携病院となった。新病棟建設は東日本大震災からの復旧復興事業として取り組んだ。(飯田勉)

竣工式で安本和正理事長(病院長)は「公共性の高い地域密着型病院の運営に努めたい。救急医療には特に力を入りたい」と話した。来賓の橋本昌知事が「市民の信頼に応えら